

都市計画道路荒瀬上田面線「川原橋」が開通

県北広域振興局土木部 二戸土木センター

県が平成12年度から事業を進めてきた都市計画道路荒瀬上田面線船場地区の「川原橋」が平成24年3月10日開通しましたので、お知らせします。

【開通式】

開通式典は、小雪舞う曇り空の中、午前11時から川原橋上で行われ、関係者約40人と住民約300人が見守る中開催されました。

式典では、関係者によるテープカット、石切所小児童により新旧川原橋への思いが朗読され、同小マーチングバンドの演奏の中、渡り初めパレードを行いました。

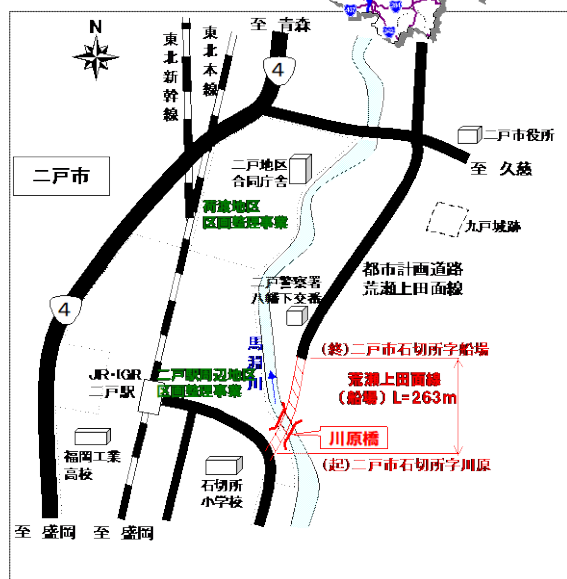
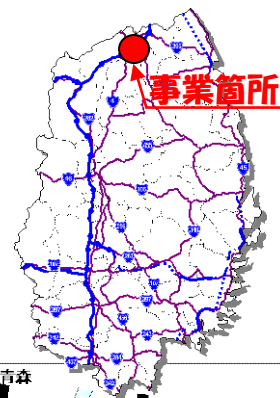


【事業概要】

都市計画道路荒瀬上田面線は、南北に広がる二戸市の中心市街地を縦貫する都市内道路であり、また当該区間は、県北の玄関である二戸駅と中心市街地または県北沿岸の久慈市とを連絡する等重要な役割を担っています。

しかし、現道は、交差点が変則三叉路で見通しが悪く幅員狭小で、かつ歩道幅員も十分に確保されていないため、安全で円滑な通行の支障となっていました。また、昭和15年完成の川原橋は、建設後70年経過するなど老朽化が著しく早急な架け替えが求められていました。

このため、本事業により、交差点改良及び拡幅、川原橋の架け替えを行うことで、安全で安心な通行空間の確保と都市内道路の機能向上を図るものです。



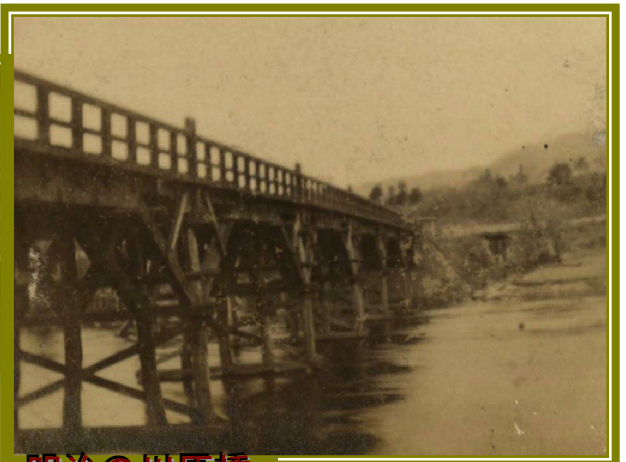
事業延長	263m
幅員	6.0 (16.0) m
事業費	約15億円
事業期間	平成12年度～平成24年度

【川原橋の生い立ち】

川原橋が、現在の位置に架けられたのは国道開通に伴う明治21年のこと。舟渡し
が重要で欠かすことのできない交通手段であった当時、架橋は、地域の交流を飛躍的
に向上させました。

明治の川原橋は木橋でしたが、その後、昭和15年（1940年）にコンクリート橋
に改修され、そのコンクリートの橋も今回の架け替え事業に伴い、平成21年2月の
渡り納めを最後に取り壊され、その役目を終えています。

川原橋は、明治21年の架橋から、同一位置で2回目の架け替えとなりますが、よ
り安全で安心な橋に生まれ変わり、これからも地域の往来や物流を支え続けます。



明治の川原橋
(明治21年完成)



昭和の川原橋
(昭和15年完成)



[平成22年2月5日“渡り納め”の様子]



地域の声で開催となった“渡り納め”には、
住民約40人の参加となるなど地域住民の川原
橋への思いの強さが伺えます。